

『Excelで読み取る経済データ分析』掲載データの更新につきまして

・ii 「はじめに」について

現在の大学生は、表の内容（いわゆる脱ゆとりのカリキュラム）を学習しています。

なお、新しい学習指導要領が、小学校で2020年度、中学校で2021年度から完全実施、高等学校では2022年度の第一学年から学年進行で実施されます。算数・数学の内容は、今まで以上に統計学に関する事項が増え・学習する学年が前倒しになっており、「情報」との関連づけが強まっています。

・**第1章（例題1）**は、2019年9月段階で入手できた最新の値に変更しています。

なお、e-stat はレイアウトが大きく変わっています（[図 1-1](#)～[図 1-3](#)）。

・**第2章（例題2）**は、2019年9月段階で入手できた最新の値に変更しています。

なお、例題データは近畿地方を対象としていますが、他の地域情報は、「住民基本台帳人口2019.xls」「都道府県別面積調2019.pdf」を参照してください。

・**第3章（例題3）**においては、[表 3-1](#) は説明のためのみであるため、p.23 のままです(2012年の数値)。近年コンビニの合併がありましたが、日本フランチャイズチェーン協会がデータを公開しなくなったことから、例題3については本書のまま（2010年度）としています。

なお、現状に興味を持つ学生も多いため、各社のweb ページ情報等を利用し、2018年度においてできる限り正確な数値をまとめた表を、「(2018年)」タブに参考までに掲載しています。

・**第4章（例題4）**・**第5章（例題5）**は、JAMA がデータ公開の範囲を変更した（生産と輸出については全メーカーの合計のみ公開）ため、本書のまま（2012年まで）としています。

・**第6章（例題6）**は、これより後内閣は同調査（「少子化対策に関する特別世論調査」）を行わなくなったため、そのまま（2004年と2009年）としています。タブ名に(2010)とあるのは、Office2010の場合の操作となります（参考までに入れてあります）。

・**第7章（例題7）**は、仮想データ（大阪府吹田市の代表値を元にデータを生成）のため、そのままとしています。本書では、p.71 で countif 関数を用いて度数を1つひとつ求めています。frequency 関数を用いて度数全体を一度に求める方が作業は楽です。「例題7」タブで説明しています。

・**第8章（例題8）**のデータは、いずれもそのままです。

・第9章（例題9）は、国勢調査より2015年の値を計算し、データを延長しています。なお、Excel 2016から「箱ひげ図」を作る機能が追加されましたが、データの並び方が表9-2の形式では適用できないため、利用していません。

・第10章（例題10）は、そのままとなっています。

・第11章（例題11）は、そのままのデータと入手できた最新時(2018年)の両方を掲載しています。(近年、所得が伸び悩んでいるため、あまり数字が動いていません。)

・第12章

12.2 事例1 練習問題12-1 (図12-3) は、そのままのデータと入手できた最新時(2017年まで)の両方を掲載指定しています。(本は68SNA、近年のデータは2008SNAと基準が異なるため重複した年でも値が異なります。)

12.3 事例2 については、入手可能な最新時(2017年まで)までデータを更新しています。

なお「日本の財政関係資料」は毎年改訂されていて、よりわかりやすく書かれた「これからの日本のために財政を考える」も書かれています。それら財政に関するパンフレットや教材については

https://www.mof.go.jp/budget/fiscal_condition/related_data/index.html

を参照してください。

12.4 事例3 については「日本の将来推計人口(全国)」が2017年に改訂されたため、それに応じてデータを更新しました。

<http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/Mainmenu.asp>

参考までに、別タブに、他の仮定の場合の人口の推移を記載しています。

・第13章（例題12）は、93SNA基準で延ばせるところ(2014年)までデータを更新しました。(2010年の値が異なるのは、本は速報値に対して、こちらのファイルは確定値を用いているため。)

(付記) 各官庁で、概ね、前年のデータは7月頃に、前年度のデータは9月頃に更新されてきましたが、データ不正問題以降、スケジュールが遅れがちです。

以上